第38回

市民福祉講座

人生 100 年時代を迎え、社会環境も家庭環境もさまざまに変化しています。人は人との関わりの中で、一喜一憂しながら、さまざまな価値観を持って生きています。どう生きるかを問う意味で、

「一人ひとりが輝いて生きる」

をテーマに開催します

会場：総合福祉会館３階集会室
【３回シリーズ】
受講料　1,000 円

参加希望者は、赤穂市社会福祉協議会窓口（総合福祉会館 赤穂市中広 267　電話 42-1397）に6月１２日（月）～７月１０日（月）の平日午前９時から午後５時にお申込みください。（定員になり次第終了）。

定員120名（先着順）
市内在住・在勤・在学者優先

第１回
7/15[土]
午後1時30分～3時30分

「45歳差で気づいたこととは？」

～今だから分かる夫婦の絆～

タレント　加藤　綾菜　氏

2011 年に加藤茶さんと結婚。年齢差 45 歳年の差婚として話題になるも、ネットでは「財産目当て」や「保険金目当て」等とバッシングの嵐を受け続けた。しかし、一切反論することなく耐え続けたことで、世間の目やネットニュースでの扱われ方が変わり、最近では献身的に支える良き妻として、年の差婚ならではの料理やコミュニケーションの取り方など、考え方や生き方が注目されている。現在は大味好きの夫の体調を考えた「美味しく減塩料理」を日々研鑽しており、今年で結婚 12 年目を迎える。

第2回
7/22[土]
午後1時30分～3時30分

「災害の日常化」

～他人事ではなく自分事として考える防災～

拓殖大学大学院地方政治行政研究科特任教授
防災教育研究センター長　濱口　和久　氏

昭和 43 年熊本県生まれ。防衛大学校卒、日本大学大学院修士課程修了（国際情報修士）。防衛庁陸上自衛隊、民間シンクタンク研究員、栃木市首席政策監などを経て現職。一般財団法人防災教育推進協会常務理事・事務局長、稲むらの火の館（濱口梧陵記念館・津波防災教育センター）客員研究員なども務める。

『リスク大国 日本 国防・感染症・災害』（グッドブックス）を含め著書多数。

第3回
7/29[土]
午後1時30分～3時30分

「ヤングケアラーの現状と必要な支援」

～今、地域ができることを考える～

大阪公立大学現代システム科学研究科
准教授　濱島　淑惠　氏

© 撮影：前川政明

日本女子大学大学院人間社会研究科博士課程後期満期退学。金沢大学において博士（学術）取得。家族介護に関する研究に取り組み、2016 年に日本初となる高校生を対象としたヤングケアラーに関する質問調査を実施。2019 年には元当事者たちや有志とともに「ふうせんの会」を立ち上げ、支援に携わっている。その他、国のヤングケアラーに関する実態調査の研究班メンバー、神戸市こども・若者ケアラー相談窓口アドバイザー等を務めている。主な著書に『子ども介護者－ヤングケアラーの現実と社会の壁－』がある。

主催／赤穂市社会福祉協議会
後援(予定)／赤穂市・赤穂市教育委員会・赤穂市自治会連合会・赤穂市民生委員児童委員協議会・関西福祉大学